

<アメリカンフットボール：パナソニック杯第70回毎日甲子園ボウル・立命大28—27早大>

◇12月13日◇阪神甲子園球場



立命大が28—27で早大を振り切り、5年ぶり8度目の優勝を果たした。立命大はRB西村七斗（2年）の2TDなどで、第2Q中盤で21—0としたが、早大の追い上げを許し、第3Qには21—24と逆転された。しかし、第4Qに再びリードを奪った。そして、最後は試合時間残り3秒、逆転を狙った早大K佐藤のFGが不成功に終わり、逃げ切った。大会最優秀選手と年間最優秀選手（ミルズ杯）には西村が選ばれた。敢闘選手には早大QB政本悠紀（4年）が選ばれた。立命大は1月3日のライスボウルに進出、社会人王者と対戦する。

【第1クォーター】

コイントスに勝った早大が後半のレシーブを選択。前半は立命大のレシーブ、WR渡辺のキックオフリターンで試合開始となった。そして、QB植村が走って前進したが、ファーストダウン更新はできない。その後の早大の最初の攻撃は自陣28ヤードから。こちらもファーストダウン更新には至らなかった。

立命大の攻撃に変わり、自陣22ヤードからQB西山のパスで5ヤード前進。その後、RB西村のランでファーストダウンを更新した。さらに次の攻撃では、4thダウンギャングブルでRB西村のランを選択、攻撃権をキープすると、QB西山がTE成田へロングパスを決めた。そして、7分28秒、ゴール前3ヤードからRB長谷川航が先制TDランを奪った。



対する早大はラン攻撃で5ヤード前進も、QB政本からのパスをWR岡田がキャッチミス、ファーストダウンを更新できない。そして、立命大の攻撃で、早大はDLの要・庭田が負傷退場となってしまう。すると立命大はRB西村が左サイドラインを大きく前進した。しかし、QB西山のキープランではファーストダウン更新はできなかった。残り2分9秒から早大の攻撃。QB政本のスクランブルで、初めてファーストダウンを更新した。ここで第1Q終了となった。

【第2クォーター】

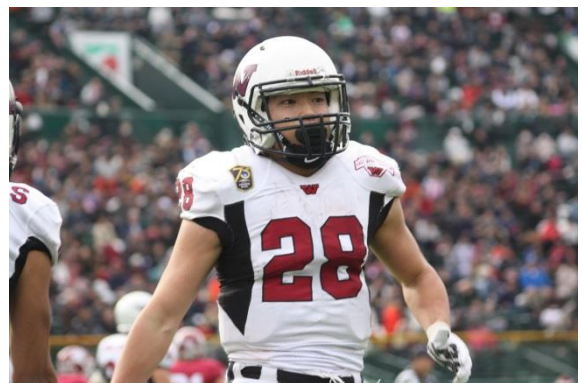
エンドが変わっても、早大はQB政本からWR岡田へのパスが決まらない。するとQB政本はQBサックされてしまう。立命大の攻撃となり、QB西山がWR猪熊へのパスでファーストダウンを更新した。しかし、その後の攻撃権は維持できなかった。



早大はQB政本がショートパスで前進するが、ロングパスは決まらず、ファーストダウン更新はできない。変わって攻撃権を得た立命大もQB西山がパスを失敗する。しかし、次の攻撃ではRB西村がわずかな相手のすきをつき、右サイドラインを63ヤード独走。6分0秒にTDを決めた。

早く追い付きたい早大はQBを佐々木に替えるが、最初のパスを相手LB長谷川仁にインターセプトされてしまう。すると、立命大はQB西山がスペシャルプレーを見せる。ハンドオフしたボールを自身でパスキャッチし、ゴール前に迫った。そして、RB西村が中央突破。7分42秒、7ヤードのTDランを決めて、21-0とした。

早大は次の攻撃、OL樋口が負傷退場となり、リズムをつかめない。しかし、4thダウンでパントの態勢からトリックプレーでボールをキープしたRB須貝が、左サイドラインを61ヤード独走、11分23秒、追撃のTDを決めた。続く立命大はQB西山がWR猪熊へロングパスを狙うが、わずかに届かない。すると早大LB塚田からQBサックを浴びてしまう。



残り1分6秒で早大の攻撃に変わるが、QB政本から岡田へのロングパスはカットされてしまう。しかし、粘る早大は再びQB政本が左サイドライン際を走る岡田へロングパスをヒット。岡田は相手ディフェンスを振り切って、そのままエンドゾーンまで73ヤード走り込んだ。14分54秒、TFPキックも決まり、14-21。次のキックオフで前半を終えた。

◆立命大・米倉監督（試合中） ミスが多いのでしっかりアジャストさせたい。あたりまえのプレーができていないので、それをやらせる。

【第3クォーター】

後半は早大のレシーブで開始。自陣33ヤードからの攻撃となるが、イリーガルフォーメーションの反則で5ヤード罰退してしまう。QB政本はキープランで陣地を挽回、さらにWR鈴木へのパスでファーストダウンを獲得した。しかし、さらなるパスは相手DL大野にカットされ、ダウン更新はできなかった。



対する立命大はRB西村の連続ランで中央を前進した。しかし、ファーストダウン獲得はできない。早大はQB坂梨に交代、ショートパス攻撃を見せるが、こちらも前進できない。ロングパスは相手DB木村にカットされてしまう。

立命大はRB西村がまたも中央を突破、15ヤードを走ってファーストダウンを獲得した。しかし、次の攻撃で早大DL小宮山にファンブルリカバーされてしまう。敵陣28ヤードから攻撃権を得た早大は、QB政本のキープランで前進する。WR西川が立命大DB奥田にロスタックルを浴びたが、早大は9分4秒、K佐藤が36ヤードのFGを成功させ、4点差に迫った。



続く攻撃で立命大は徹底してRB西村を使う。しかし、数インチ足りず、ファーストダウン獲得はできない。そして、早大が大きくパントリターンして、得たチャンス。QB政本が見事な逆転を決める。ゴール前へ走り込んだWR諸口へ54ヤードTDパスをヒットさせた。11分31秒、TFPキックも決まり、早大がついに21点のビハインドをひっくり返し、24-21と初めてリードを奪った。

追う立場になった立命大は、QB西山がRB西村を使うと見せかけ、TE成田へのパスで前進した。その後はRB西村が走る。ファーストダウンを連続更新し、ゴール前に進んだ。しかし、ここでRB西村が足を痛めベンチに下がる。残り5ヤードからRB長谷川が中央突破を試みるも、前進できず、ここで第3Qが終わった。

【第4クォーター】

開始7秒、立命大がいきなり逆転を決める。QB西山が自らキープし、エンドゾーン右へ走り込んだ。5ヤードのTDラン。TFPキックも決まり、28—24と再びリードを奪った。

◆立命大・QB西山 あのプレーは、本当は(QB)植村(優人=1年)のプレーだったけど、僕に託してもらったんで、絶対結果につながらなかった。最高の結果を出せて良かった。ラインが成長した。だから、ランも出るし、パスもそこそこ決まる。上級生と仲いいし、気を使ってもらっている。若い学年が生き生きできているのは、4回生が作ってくれた環境のおかげ。



対する早大もQB政本がキープランで前進する。しかし、次のパスは8ヤードロス、さらなるパスも不成功で攻撃権キープはできなかった。

立命大はRB西村がフィールドに戻り、すぐラン攻撃を見せる。QB西山がキープランで50ヤードラインまで進むが、ファーストダウン獲得はできなかった。



残り10分余りとなって早大の攻撃。RB須貝のランで大きく前進した。しかし、続くスクリーンパス攻撃などではゲインできない。するとQB政本はロングパスを選択。右サイドラインを走るWR鈴木隆へヒットし、敵陣28ヤードまで前進した。その後は立命大ディフェンスが踏ん張り、TDを許さない。すると早大は8分12秒、K佐藤が38ヤードのFGを決め、27—28とした。

残り6分39秒から立命大の攻撃はRB西村のラン。しかし、ファーストダウン獲得はできない。代わって早大の攻撃は自陣QB政本のキープラン。ファーストダウンを獲得したが、ロングパスは立命大DB奥野にインターセプトされてしまう。

残り4分を切って、立命大はラン攻撃を選択。RB長谷川、RB西村が中央を走るが、なかなか前進できない。しかも12人ハドルの交代違反反則で5ヤード罰退してしまう。

残り1分46秒で自陣12ヤードから早大の攻撃に代わる。QB政本が自ら走って大きく前進したが、手痛い



アンスポーツライフコンダクトの反則で15ヤード罰退してしまう。しかし、政本は再びキープランでファーストダウンを獲得。ところが、早大はフォルススタートの反則を犯し、5ヤード罰退となった。

ここから早大はRB須貝のランで前進する。残り3秒で逆転を狙ったK佐藤の52ヤードFGトライ。しかし、不成功に終わり、立命大の優勝が決まった。K佐藤はその場にうずくまり、表彰式でも涙が止まらなかった。



◆立命大・DL田辺主将 最高にうれしい。試合前から厳しい試合になるのは分かっていた。全員で自分たちができることをすべて出し切ってやろうと、集中してやった結果が出たんだと思う。(最後のFGは)みんなDFがプレッシャーかけて止めてくれると思った。仲間を信じて見ていた。関学大戦が終わって3週間あったけど、緩んだ雰囲気はもちろんあった。でも、春に早稲田に負ける。全員モチベーションを持ってやれた。(ライスボウルへ向けては)全て出し切っても、勝てるかどうか分からんくらい強い相手。自分たちのできることを全てやって臨みたい。

◆立命大・RB西村 みんなのために頑張った。OLが頑張ってくれて自分のランが出せた。(第3Qに足を痛め、ベンチに下がったが)くじけていられなので、(第4Qは)最後まで出た。これまで最高のシーズンで最高に気持ちいい。ファンに感謝している。頑張って日本一になりたい。

◆早大・濱部監督 立ち上がりはオフェンス、ディフェンスともに浮き足だって、ミスをした。中盤から地に足がついてきた。もともと第4Q勝負と思っていた。

◆立命大・米倉監督 私自身も多くの指示ミスをしたし、試合中にあり得ないミスもあった。でも、春から学生が本当に頑張って日本一になれた。ほめてあげたい。ライスボウルに向けて、やるものがたくさんある。(RB)西村だけでなく、他の攻撃パターンも増やさないと勝負にならない。それにしても早大は素晴らしかった。ライスボウルで0-21となって、今の我々に同じことができる自信はない。本当にいい勉強になった。我々も頑張らないといけない。

【日刊スポーツ 吉池 彰】